

連休のすすめ

研究開発室
小谷 みどり

< 連続休暇の効用 >

秋の行楽シーズンが到来した。今年は曜日の関係で、9月から11月にかけてのこの時期、土日と合わせた3連休が4回もある。少し遠出でもして、都会の喧騒を離れ、日ごろのストレスを発散させるには、絶好の機会だ。

実際、種々の世論調査によれば、3日以上連続した休暇には、週末の休日に比べて、「日帰りの行楽」や「1泊2日の宿泊旅行」などをして過ごす人が増え、「何もしないでのんびりする」人や、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの見聞き」をして過ごす人が減少する傾向にある。

また、10数年前までは、「家族団らんの時」と「仕事にうちこんでいる時」に充実感を感じる人が多かったが、昨今では、「ゆったりと休養している時」や「趣味やスポーツに熱中している時」、「友人や知人と会合、雑談している時」にも充実感を感じる人が増加している（図表1）。

このように、連続休暇などまとまった自由時間を持つことは、充実感を得るだけでなく、日常生活から抜け出し、気分転換を図るという意味でも、ストレスの多い現代人には大切なのである。おりしも来年から、海の日が7月第3月曜日、敬老の日が9月第3月曜日に制定され、成人の日と体育の日にゴールデンウィークを合わせると、少なくとも年に5回は3連休が確保される。

< 減少する年次有給休暇取得率 >

とはいえ、法定連休には多くの人が一斉に休むわけで、さまざまなデメリットもある。利用者に

とっては、レジャー・宿泊施設や交通機関が混雑するうえ、料金は高く、コストパフォーマンスが極めて悪い。サービス供給側にとっても、需要の時期的格差は経営や雇用の安定を阻害し、結果、ピーク料金を設定せざるをえなくなる。

オフシーズンに有給休暇を取って休めばいいのだが、そうもいかないのが日本の現状のようだ。ここ10年間で年次有給休暇の付与日数は増加しているものの、取得率は減少しており、2000年にはついに5割を下回った（図表2）。これは国際的にも極めて低調で、30年以上前に発効されたILO132号条約（有給休暇3労働週付与、うち1回は連続2週間）と照らしても、その格差ははなはだしい。

< 有給休暇の経済効果 >

経済産業省や国土交通省などが今年6月に発表した「休暇制度のあり方と経済社会への影響に関する調査研究委員会報告書」によれば、年次有給休暇の完全取得が実現すれば、旅行などで増加する余暇消費総額約4兆5,000億円を含む余暇需要の生産波及が約7兆4,000億円。これに、関連産業や新規雇用による生産誘発効果の総額を加えると、11兆8,000億円もの経済波及効果があるという（図表3）。

そのため、休暇管理を徹底させ、アニバーサリー休暇、リフレッシュ休暇、ハッピーフライデー、ブリッジホリデー（祝日と週末に挟まれた日に取得）などの制度を設置し、有給休暇を取るきっかけを労働者に提供することが大切だと、報告書は指摘する。

景気回復のためにも、自身のためにも、この秋はハッピーフライデーでも取って、自然を思う存分、満喫してみたいだろうか。

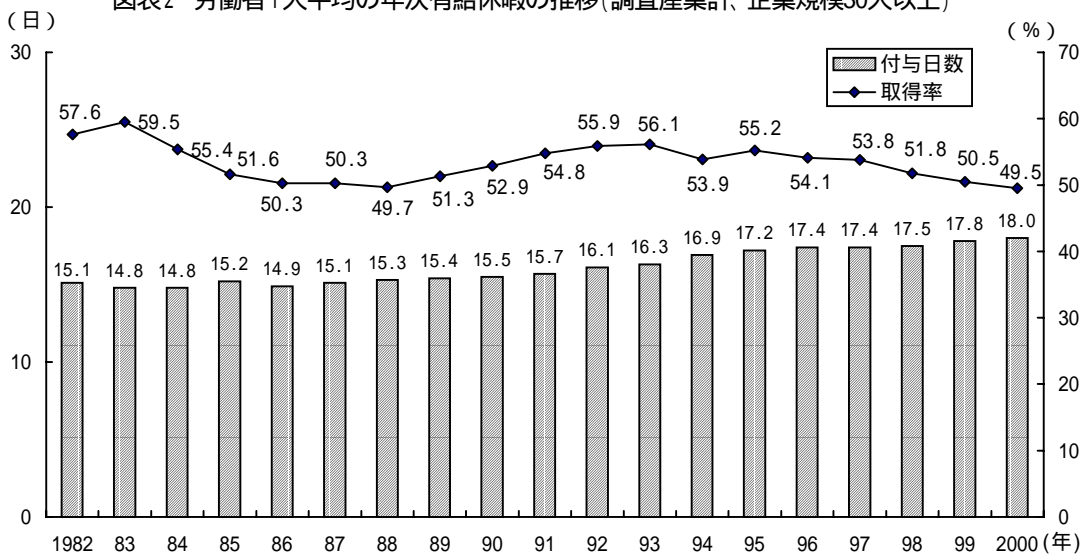
図表1 充実感を感じる時

(単位：%)

	1985年	1990年	1995年	1997年	1999年	2001年
家族団らんの時	40.6	43.3	43.1	45.1	46.9	45.3
趣味やスポーツに熱中している時	22.7	25.8	34.0	35.8	34.6	39.5
友人や知人と会合、雑談している時	22.7	27.9	31.0	35.0	35.9	39.2
仕事にうちこんでいる時	33.1	29.7	32.1	34.1	36.0	36.4
ゆったりと休養している時	25.8	28.4	33.9	33.3	34.7	31.9
勉強や教養などに身を入れている時	5.5	5.9	8.2	9.2	10.1	10.2
社会奉仕や社会活動をしている時	3.5	3.9	5.1	5.2	7.0	7.2
その他	0.6	0.5	0.7	0.7	0.7	0.7
わからない	2.0	2.0	2.1	1.7	1.2	2.1

注：調査時期は2001年9月。対象者は全国の20歳以上男女、7,080人（有効回答）
資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」

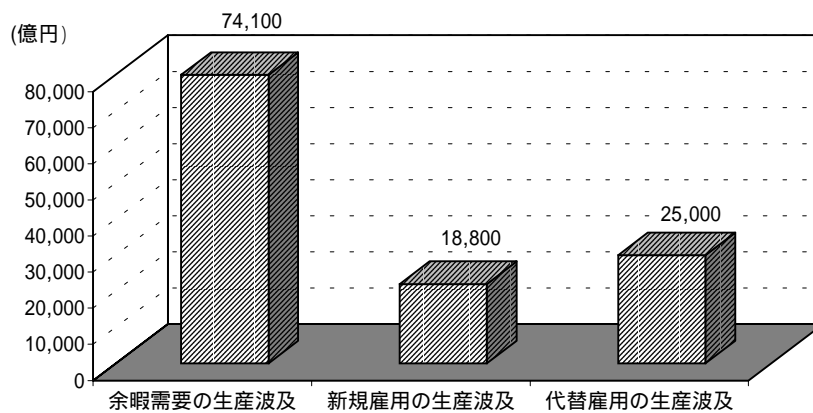
図表2 労働者1人平均の年次有給休暇の推移（調査産業計、企業規模30人以上）



資料：1999年までは労働省「賃金労働時間制度等総合調査」各年次、2000年からは名称が変更になり、厚生労働省「就労条件総合調査」

WATCHIN

図表3 年次有給休暇の完全取得による経済波及効果



資料：経済産業省・国土交通省・自由時間デザイン協会「休暇制度のあり方と経済社会への影響に関する調査研究委員会報告書」2002年6月